

## 「京都らしさ」との関わり

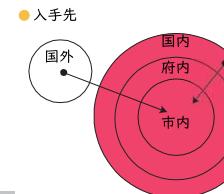


## 生物資源の利用と調達状況の例



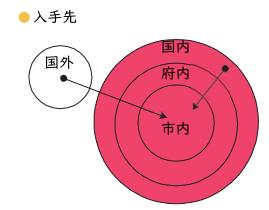
## 祇園祭

- <現状>
- アカマツは現在も入手できているが、将来的に採取できるかは分からぬ。
  - 容易 やや難 困難 不明  
-入手難易度-



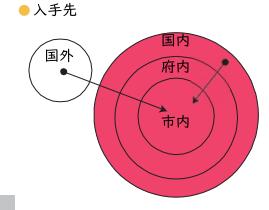
## 五山送り火

- <現状>
- マツ枯れが進み、また山が荒れているため、入手が困難。現在、アカマツが生育していても衰弱した個体が多い。
  - 容易 やや難 困難 不明  
-入手難易度-

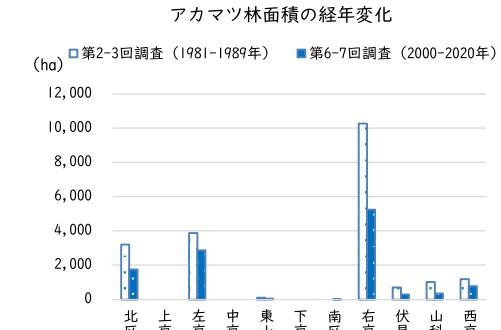
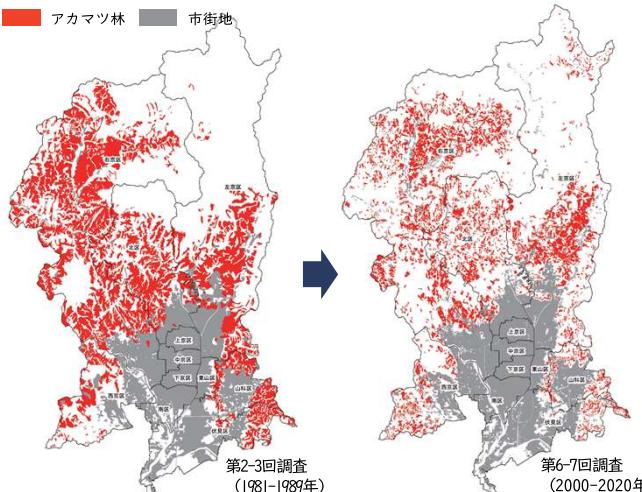


## 造園

- <現状>
- 市内調達が困難になり、府内外からも調達している。良質の材が入手困難。
  - 容易 やや難 困難 不明  
-入手難易度-



## 分布（資源）量の推移



環境省が実施した自然環境保全基礎調査の第2-3回（1981-1989年）と第6-7回（2000-2020年）の調査結果を比較すると、アカマツ林の分布が大きく減少していることが分かる。特に、北区、左京区及び右京区における減少が顕著である。

出典：1/50,000及び1/25,000植生図「京都府GISデータ（環境省生物多様性センター）」を使用し、作成。

## 減少理由と課題の整理

## 気象害

衰弱したアカマツは台風などの気象害の影響を受けやすい。

## 獣害

アカマツ林の維持管理不足で病虫害の影響から枯死木が増加している。

## 担い手（管理）不足

## 外来種

## 都市化

## 環境の質の変化



京都のコバノミツバツツジーアカマツ群集で過去・現在の類似地点の調査結果から種組成（環境の質）について比較した結果、出現種数の減少及び種組成の変化が見られ、アカマツ林特有のツツジ類が減少し、常緑広葉樹が優占する環境への変化が見られた。

## ■過去（宮脇 昭（1984）日本植生誌 [5]（近畿））

高木層：アカマツ  
亜高木層：タムシバ、コナラ、コシアブラ、リョウブ、タカノツメ、ヤマウルシ、ソヨゴ等  
低木層：コバノミツバツツジ、ネジキ、ナツハゼ、ウスギヨウラク、スノキ等のツツジ科低木、ヤマウルシ、リョウブ、タカノツメ、コシアブラ、クロモジ、ウリカエデ等の落葉広葉樹

## ■現在（大北山において実施している森林再生活動）

高木層：アカマツ  
亜高木層：ソヨゴ、コジイ等  
低木層：ネジキのほかコバノミツバツツジ等のツツジ類が僅かに生育  
ヒサカキ、ソヨゴ等の常緑広葉樹が優占

## 「京都らしさ」としての位置付け

指標種：アカマツ  
ハビタット：アカマツ林



① 様々な構成要素（特に祭事・伝統行事）との関わりが深く、京都の伝統を継承していくには必要な生物資源。

② アカマツは生物多様性としての価値とともに、京都の森林景観として「京都らしさ」を支える生物資源。

